

実践報告

東京未来大学における「ハラスメント防止研修」の
アンケート結果まとめ杉本 雅彦¹⁾・太田 英樹²⁾・野島 誠紘³⁾・柳生 崇志⁴⁾Summary of Questionnaire Results in Training for Harassment Prevention at
Tokyo Future UniversityMasahiko Sugimoto¹⁾, Hideki Ota²⁾, Masahiro Nojima³⁾, and Takashi Yagyu⁴⁾

要約

ハラスメント防止のための啓発活動として、東京未来大学ではハラスメント防止規程の設定、相談の流れなどを記したリーフレットの配布、加害者にならないための留意、コンプライアンスに関する研修の内ハラスメント防止に注力し、コンプライアンス委員会による毎年のハラスメント防止研修などを行ってきた。東京未来大学のハラスメント防止研修は、大学におけるハラスメントに関する正しい知識の普及啓発、そして、ハラスメント問題に対する知識を深めることを目的として、「ハラスメント防止 e ラーニング研修」を2020年度から2022年度の3年間実施した。本報告は、3年間のアンケート結果より、当該研修の内容や方法の適否の検討結果、および、ハラスメントに関する各種の課題について報告した。

キーワード：ハラスメント防止研修、大学におけるハラスメント、ハラスメント防止に関する普及啓発、ハラスメント防止研修のアンケート結果

1. はじめに

各省庁において古くからハラスメント対策に関する取組がおこなわれており、文科省においては「文科省におけるセクシュアル・ハラスメントの防止等に関する規程」が制定されている(文科省, 1999)(文科省, 2019)。また、日本教育心理学会では、学会でのハラスメント防止に取り組み『日本教育心理学会ハラスメント防止ガイドライン』として、具体的に

以下の3つの取り組みが挙げられている(日本教育心理学会, 2010)。

- (1) 予防のための啓発活動
- (2) 事態の把握のための相談活動
- (3) 起きてしまった、または、起きている(可能性が高い)と判断された場合の対処

一方、本学においては、ハラスメント防止のための啓発活動として、東京未来大学ハラスメント防止規程の設定(東京未来大学, 2007)、相談の流れな

1) 杉本 雅彦 東京未来大学モチベーション行動科学部 (Tokyo Future University) sugimoto-masahiko@tokyomirai.jp
 2) 太田 英樹 東京未来大学こども心理学部 (Tokyo Future University) ota-hideki@tokyomirai.jp
 3) 野島 誠紘 東京未来大学エンロールメント・マネジメント局 (Tokyo Future University)
 4) 柳生 崇志 國學院大學人間開発学部 (Kokugakuin University) yagyu@kokugakuin.ac.jp

どを記したリーフレットの配布（東京未来大学、2019）、加害者にならないための留意事項、毎年のコンプライアンス委員会によるハラスメント防止研修などを行っている。また、学内の整備として、ハラスメント相談員・個人情報相談員の選出を行っている（東京未来大学、2023）。

本学のハラスメント防止研修は、大学におけるハラスメントに関する正しい知識の普及啓発、そして、ハラスメント問題に対する知識を深めることを目的として、「ハラスメント防止eラーニング研修」を2020年度から2023年度の3年間実施してきた。本実践報告では、3年間のアンケート結果より、当該研修の内容や方法の適否の検討結果、および、ハラスメントに関する各種の課題について報告する。

2. 2020年度SD研修「ハラスメント防止eラーニング研修」のアンケート結果

2020年度に実施したSD研修「ハラスメント防止eラーニング研修」のアンケートの実施概要、結果、

考察について以下に述べる。

2.1 アンケート実施概要

- 研修名称：SD研修「ハラスメント防止eラーニング研修」
- 調査目的：当該研修の内容や方法の適否の検討、およびハラスメントに関する各種課題の把握
- 実施期間：2021年1月20日（水）～4月30日（金）（研修実施期間に準ずる）
- 回答者：本学専任教職員および非常勤講師、計173名（うち専任教職員対象者135名の回収率は100%）
- 方法：Googleフォームを用いたWebアンケート方式
- 調査項目数：選択式・記述式合わせて6項目

2.2 結果

(1) Q2～Q5の4項目の結果を図2.2.a.に示す。

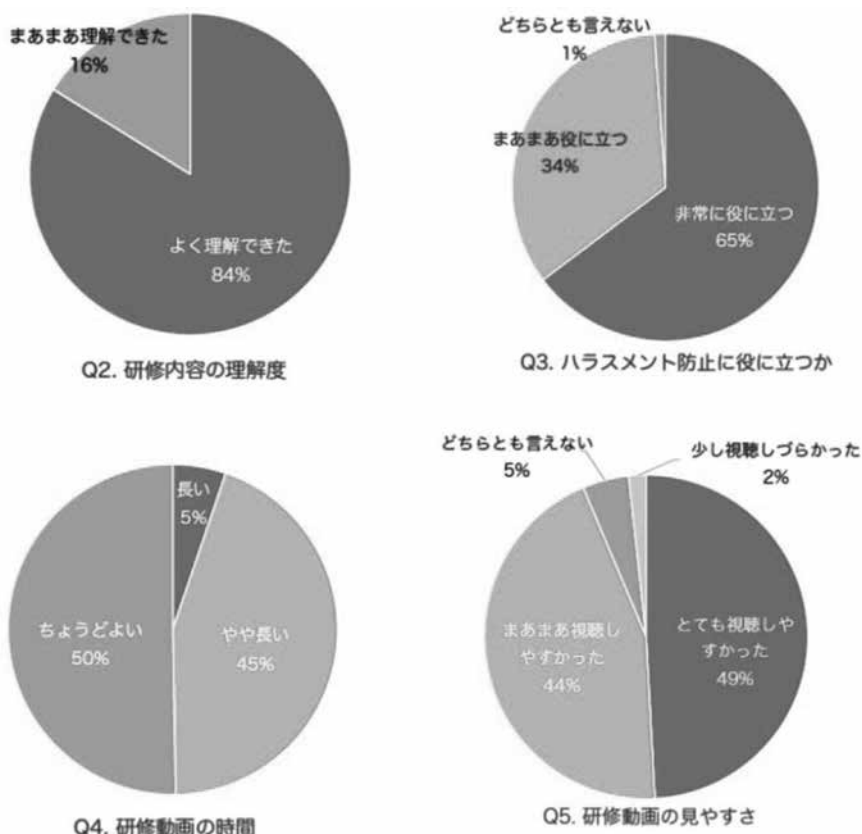


図2.2.a. Q2～Q5の4項目（いずれも5件法）の結果

(2) Q 6, Q 7の2項目 (いずれも自由記述) のワードクラウドおよび単語出現頻度を, 図2.2.b.から図2.2.e.に示す。

「Q 6. 次回の研修企画に向けて, ご要望, 改善点, 今度ハラスメント研修で聞いてみたい内容等ございましたらお書きください。」

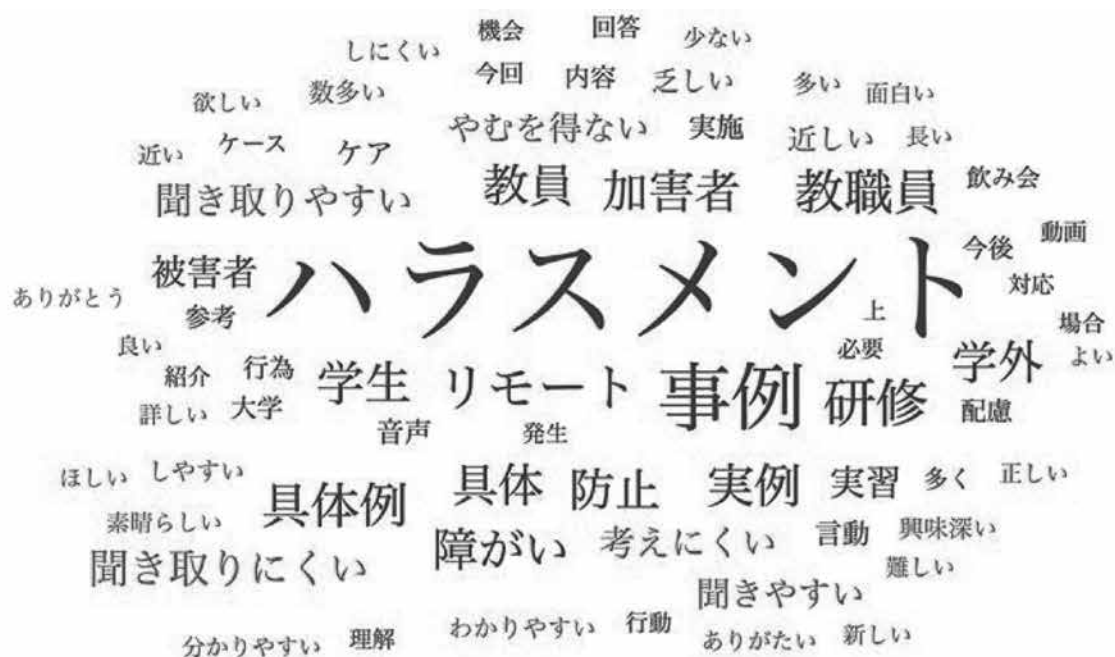


図2.2.b. Q6 のワードクラウド; 名詞, 形容詞のみ

■ 名詞	スコア	出現頻度
ハラスメント	246.12	49
事例	99.16	29
研修	27.11	22
リモート	22.30	8
具体例	18.22	5
研修会	17.29	2
教職員	16.69	4
学生	12.63	21
実例	12.38	4
学外	11.44	3
合理的配慮	11.34	2
障がい	8.99	3
加害者	7.88	5
具体	6.90	6
教員	6.88	5

図2.2.c. Q6 の単語出現頻度; 名詞, 形容詞のみ (「スコア」は重要度の傾斜)

「Q 7. 日頃、ハラスメントに関する事で気になっ ませんか? 差し支えなければお聞かせください。」
 ていること、困っていること、悩んでいることはあり

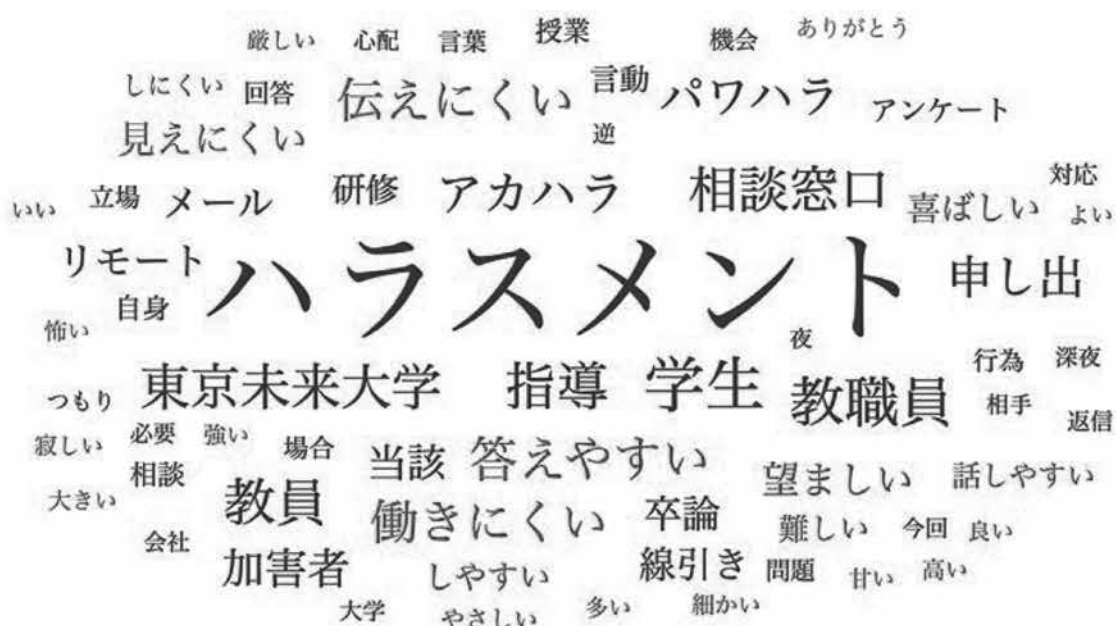


図2.2.d. Q7 のワードクラウド；名詞，形容詞のみ

■ 名詞	スコア	出現頻度
ハラスメント	189.60	40
学生	41.28	41
教職員	28.38	6
教員	20.67	10
指導	20.20	16
相談窓口	17.29	2
東京未来大学	17.29	2
アカハラ	7.97	2
パワハラ	5.05	5
申し出	3.86	2
加害者	3.39	3
当該	2.86	2
メール	2.76	11
卒業	2.69	4
リモート	2.62	2

図2.2.e. Q7 のワードクラウド；名詞，形容詞のみ

2.3 考察

アンケートの結果から、今回の研修については、
 内容・方法ともに適切だったと考えられる。研修動

画の長さについてのみ、「やや長い」というネガティブな回答の割合が多かったが、自由記述に寄せられた回答内容と合わせて考えると自動音声による単調

さや聞き取りにくさの影響もあったことが窺える。

自由記述の回答では、具体的事例に基づいた解説を一層期待する意見が多く、とくに学生と教職員間の事案についてどのように対処すればよいのか具体的な対処法について詳しく知りたいという要望が多くみられた。また、ハラスメントの加害者にならないための注意点・予防法をよく理解して気をつけていきたいと考える一方で、ハラスメントの被害を訴える学生等が客観的で妥当な理解に基づいて主張できていないことを危惧する意見もあり、組織・大学全体でのより深い理解が必要であることが示された。

3. 2021年度SD研修「ハラスメント防止eラーニング研修」のアンケート結果

2021年度に実施したSD研修「ハラスメント防止eラーニング研修」のアンケートの実施概要、結果、考察について以下に述べる。

3.1 アンケート実施概要

- 研修名称：SD研修「ハラスメント防止eラーニング研修」
- 調査目的：当該研修の内容や方法の適否の検討、およびハラスメントに関する各種課題の把握
- 実施期間：2021年12月15日（水）～2022年4月29日（金）（研修実施期間に準ずる）
- 回答者：本学専任教職員および非常勤講師、計179名（うち専任教職員対象者153名の回収率は100%）
- 方法：Googleフォームを用いたWebアンケート方式
- 調査項目数：選択式・記述式合わせて6項目

3.2 結果

(1) Q2～Q5の4項目（いずれも5件法）の結果を図3.2.a.に示す。

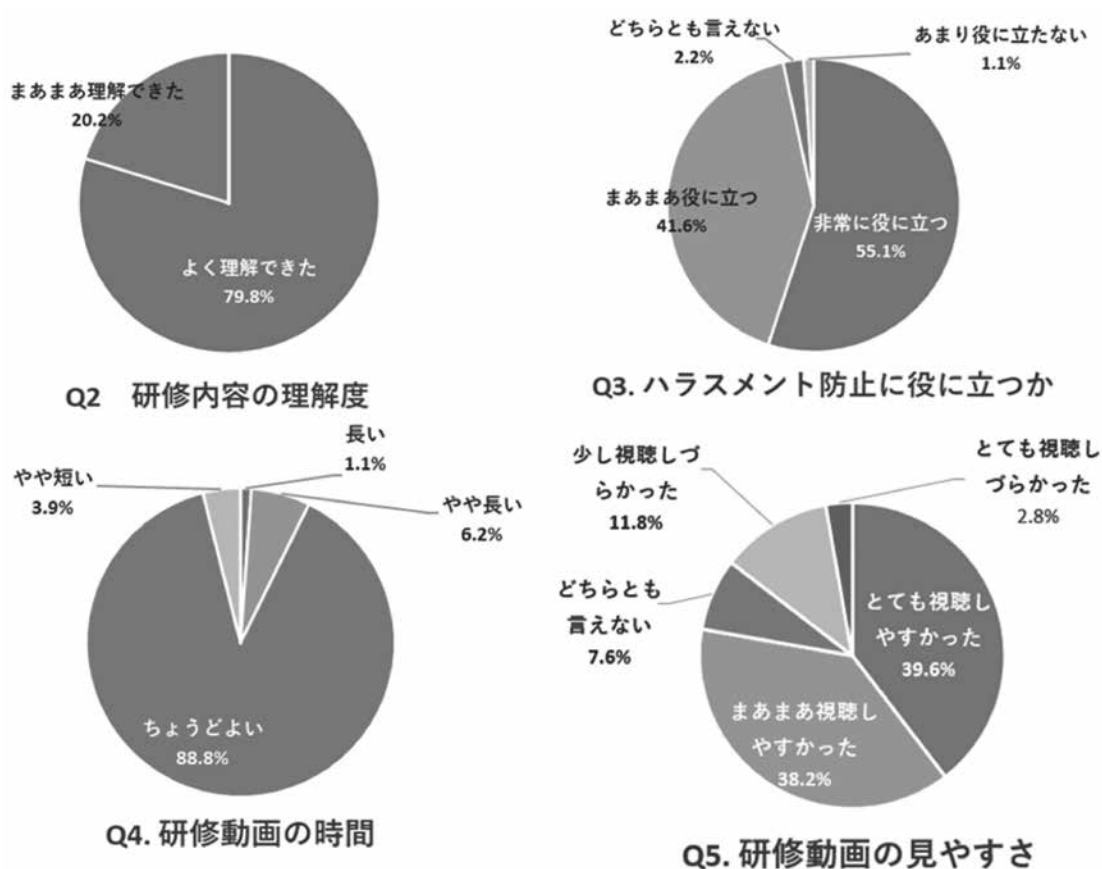


図3.2.a. Q2～Q5の4項目（いずれも5件法）の結果

■ 名詞	スコア	出現頻度
ハラスメント	195.75	41
事例	123.38	34
研修	27.11	22
学生	4.48	12
内容	1.83	11
具体	16.01	10
グレーゾーン	26.39	8
参考	1.73	7
お話	0.86	7
声	0.23	7
講習	6.55	6
対応	0.62	6
理解	0.57	6
教員	6.88	5
対処	3.51	5

図3.2.b. Q6 のワードクラウド；名詞，形容詞のみ

「Q 7. 日頃、ハラスメントに関する事で気になっていませんか？差し支えなければお聞かせください。」
 ていること、困っていること、悩んでいることはあり

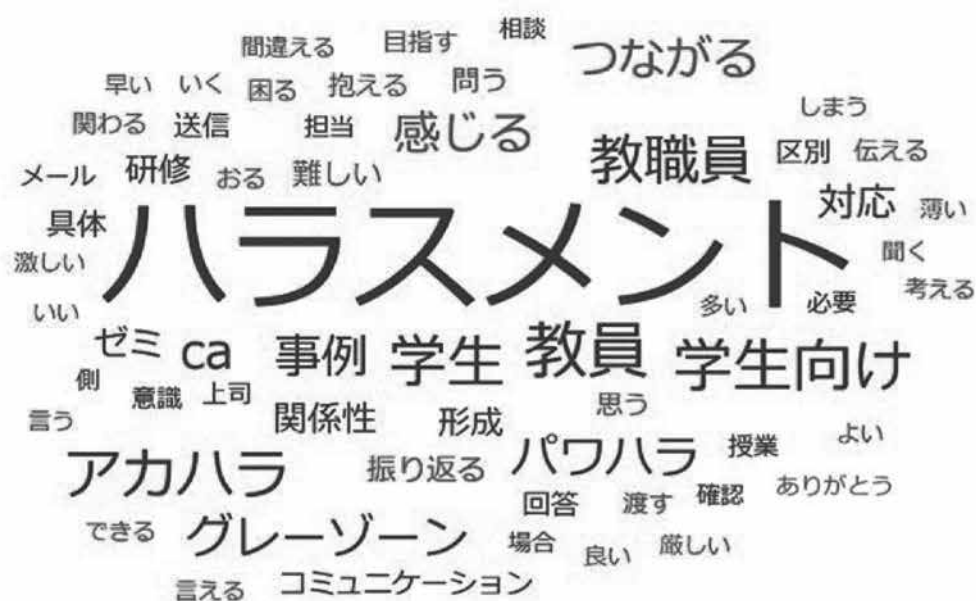


図3.2.d. Q7 のワードクラウド；名詞，形容詞のみ

■ 名詞	スコア	出現頻度
学生	16.08	24
ハラスメント	86.26	22
対応	2.03	11
教員	20.67	10
必要	0.32	6
相談	0.20	5
パワハラ	3.43	4
研修	1.27	4
場合	0.19	4
アカハラ	13.61	3
教職員	11.35	3
事例	3.01	3
関係性	1.54	3
ゼミ	1.53	3
回答	0.62	3

図3.2.e. Q7 のワードクラウド；名詞，形容詞のみ

3.3 考察

アンケートの結果から、今回の研修については、前回に比べ内容・方法ともに若干満足度が下がったもののおおむね適切だったと考えられる。特に研修動画の長さについては満足度が大幅に上昇していることから、研修の時間は30分が適切であると考えられる。しかし、動画の視聴については見づらいという回答が増えており動画の録画方法や形態の改善が必要である。

自由記述の回答は、具体的事例に基づいた解説を一層期待する意見が多く、とくに「Q 3. ハラスメント防止に役に立つか」の設問で、「あまり役に立たない」「どちらともいえない」の回答が多く見られた。このことから、研修内容の振り返りとさらなる検討が必要と考えられる。

4. 2022年度SD研修「ハラスメント防止eラーニング研修」のアンケート結果

2022年度に実施したSD研修「ハラスメント防止eラーニング研修」のアンケートの実施概要、結果、考察について以下に述べる。

4.1 アンケート実施概要

- 研修名称：SD研修「ハラスメント防止eラーニング研修」
- 調査目的：当該研修の内容や方法の適否の検討、およびハラスメントに関する各種課題の把握
- 実施期間：2022年12月14日（水）～2023年4月28日（金）（研修実施期間に準ずる）
- 回答者：本学専任教職員および非常勤講師，計

177名（うち専任教職員対象者153名の回収率は100%）

- 方法：Google フォームを用いたWebアンケート方式
- 調査項目数：選択式・記述式合わせて6項目

4.2 結果

(1) Q 2～Q 5の4項目（いずれも5件法）の結果を図4.2.a.に示す。

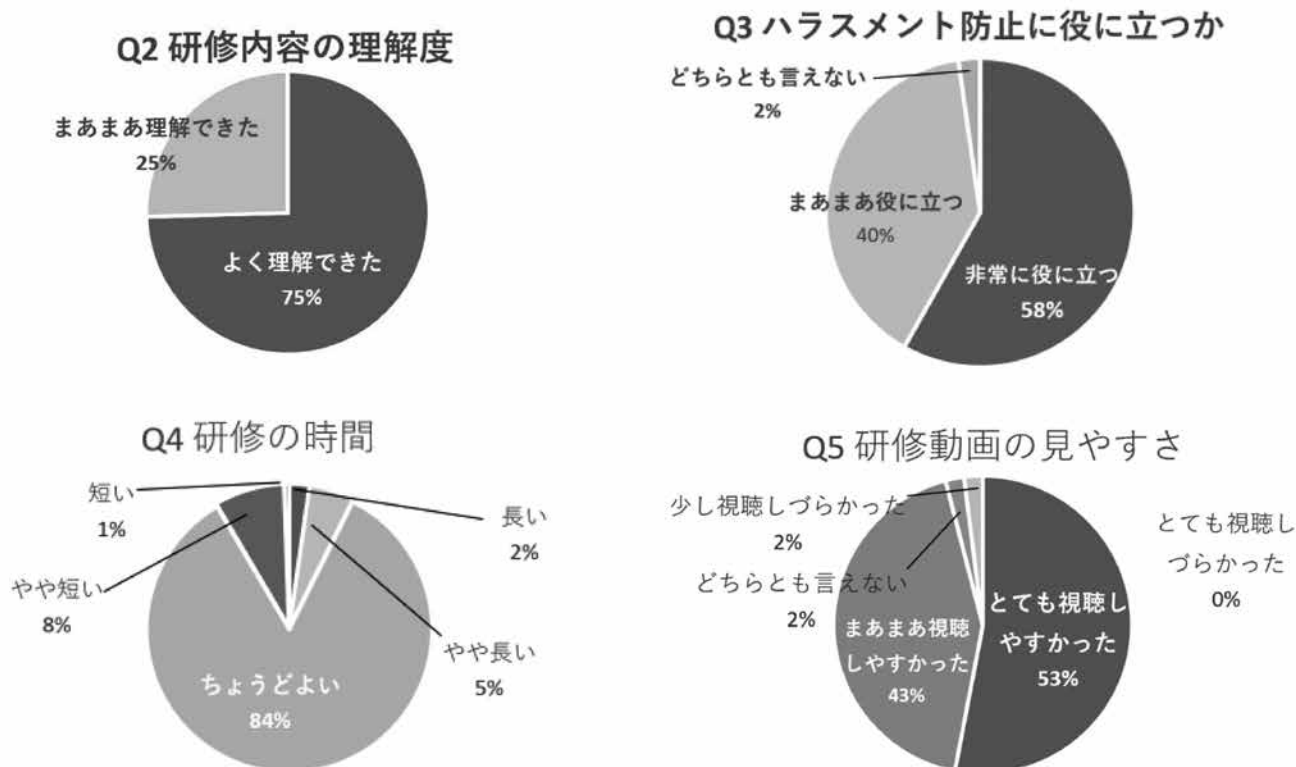


図4.2.a. Q2～Q5の4項目（いずれも5件法）の結果

(2) 2022年と2021年度、2020年度との比較

①Q 2. 研修内容の理解度について

2020年、2021年度と比べ「よく理解できた」が84%（2020年）⇒79.8%（2021年）⇒75%（2022年）と年々下がっており、「まあまあ理解できた」が16%（2020年）⇒20.2%（2021年）⇒25%（2022）と上がっている。全体の理解度としては年々下がっている状況ではあるが、「どちらとも言えない」、「あまり理解できなかった」、「全く理解できなかった」は、昨年同様0%であった。

②Q 3. ハラスメント防止に役に立つか

2020年、2021年度と比べ「非常に役に立つ」が

65%（2020年）⇒55.1%（2021年）⇒58%（2022年）、「まあまあ役に立つ」が34%（2020年）⇒41.6%（2021年）⇒40%（2022年）、「どちらとも言えない」が1%（2020年）⇒2.2%（2021年）⇒2%（2022年）のように推移しており、役に立つと回答した割合が2020年から若干減少後、回復していない傾向にある。また、2021年度に1%の回答があった、「あまり役に立たない」という回答について今回はない。

③Q 4. 研修動画の時間

2020年度は、1時間の動画研修を行ない「長い」と「やや長い」を合わせて50%であった。2021年度から30分間の研修に短縮し、「ちょうどよい」の回

答が80%台あるため、30分間の研修時間が効果的である。しかし、2022年度は2021年度と比べ研修時間が「短い」と回答する割合が、3.9%から9%へと微増しているが、「長い」と回答した割合に変化はない。

④Q 5. 研修動画の見やすさ

2020年、2021年度と比べ「とても視聴しやすかった」が49% (2020年) ⇒ 39.6% (2021年) ⇒ 53% (2022年), 「まあまあ視聴しやすかった」が44% (2020年) ⇒ 38.2% (2021年) ⇒ 43% (2022年), 「どちらとも言えない」が5% (2020年) ⇒ 2% (2021年) ⇒ 7.6% (2022年), 「少し視聴しづらかった」が2% (2020年) ⇒ 11.8% (2021年) ⇒ 2% (2022年) という推移となった。「視聴しやすい」の割合は、

77.8% (2021年) から96% (2022年) に増加傾向にある。

なお、「視聴し辛い」の回答は、2021年度のオンデマンド配信における音声トラブルが原因であり、2022年は途中から出席したZOOM参加者の音声の原因であることが考えられる。

(3) Q 6, Q 7の2項目 (いずれも自由記述) のワードクラウドおよび単語出現頻度を、図4.2.b.から図4.2.e.に示す。

「Q 6. 次回の研修企画に向けて、ご要望、改善点、今度ハラスメント研修で聞いてみたい内容等ございましたらお書きください。」

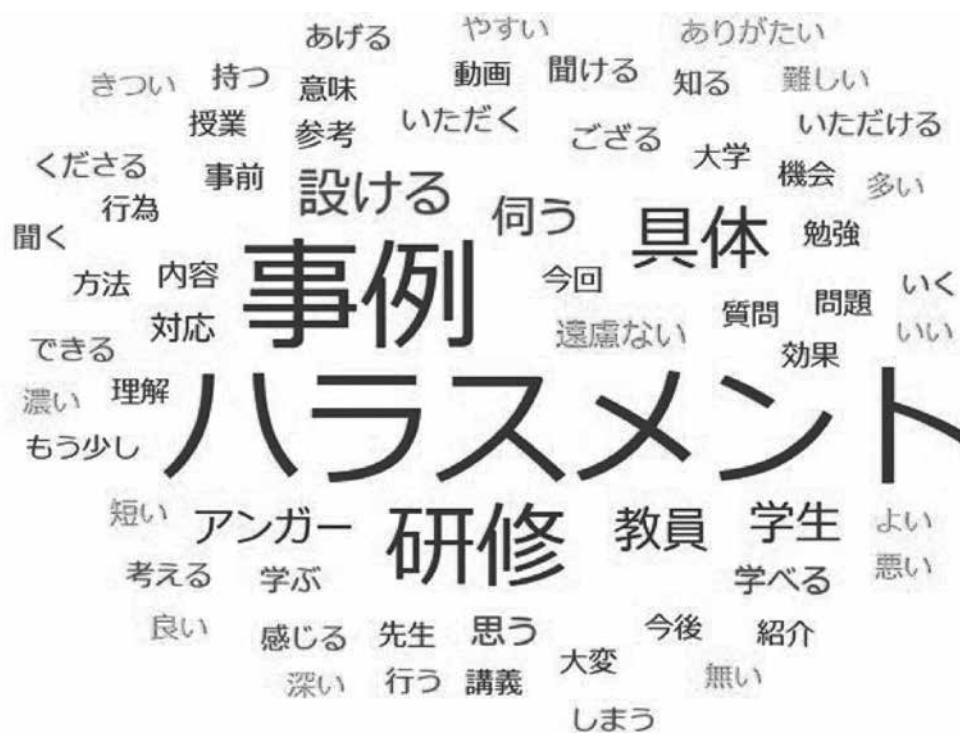


図4.2.b. Q6のワードクラウド；名詞、形容詞のみ

名詞	スコア	出現頻度
ハラスメント	18.90	27
事例	16.51	19
研修	11.31	17
学生	3.37	14
具体	7.37	13
対応	0.94	12
今回	0.50	9
内容	0.51	7
教員	3.77	6
先生	0.13	5
理解	0.32	5
質問	0.21	4
今後	0.33	4
大学	0.17	4
勉強	0.10	4
参考	0.38	4
大変	0.07	3
講義	0.31	3
行為	0.30	3
意味	0.05	3

図4.2.c. Q6 の単語出現頻度；名詞，形容詞のみ（「スコア」は重要度の傾斜）

「Q 7. 日頃、ハラスメントに関する事で気になっ ませんか？差し支えなければお聞かせください。」
 ていること、困っていること、悩んでいることはあり

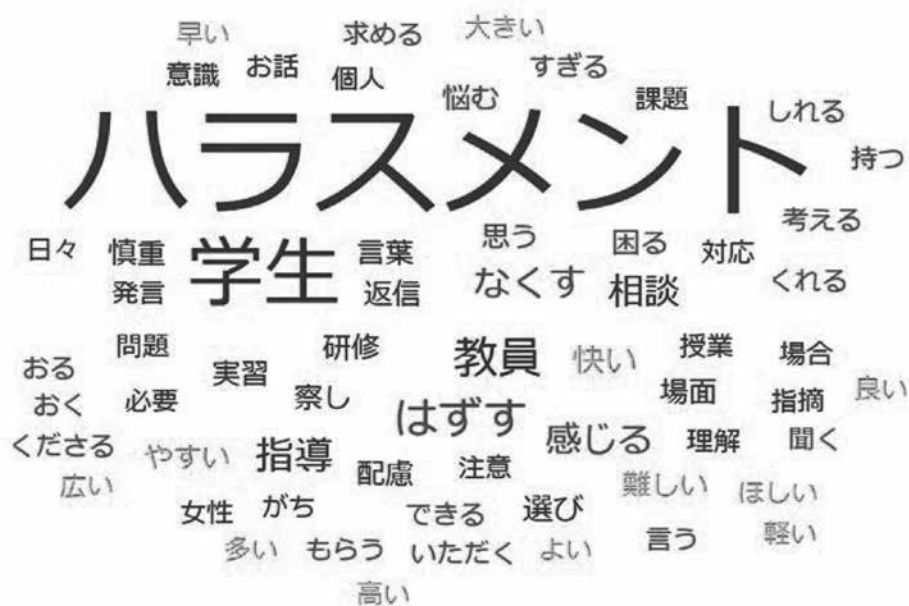


図4.2.d. Q7 のワードクラウド；名詞，形容詞のみ

■名詞	スコア	出現頻度
学生	7.31	21
ハラスメント	14.00	20
相談	1.45	9
言葉	0.26	7
指導	2.01	6
教員	2.70	5
対応	0.11	4
問題	0.08	4
発言	0.08	3
必要	0.04	3
理解	0.11	3
個人	0.12	3
返信	0.36	3
意識	0.15	3
授業	0.11	3
研修	0.43	3
実習	0.44	2
注意	0.03	2
場面	0.26	2

図4.2.e. Q7 のワードクラウド；名詞, 形容詞のみ

4.3 考察

アンケートの結果から今回の研修について、概ねわかりやすく有用である研修となったと考えられる。一方でQ2の「よく理解できた」の割合が減っているほか、Q3の「役に立つ」と回答した割合が、2020年から若干減少後、回復していない傾向にあることから、研修に対し不満を感じている割合が増えていることが考えられる。

5. まとめ

東京未来大学のハラスメント防止研修は、大学におけるハラスメントに関する正しい知識の普及啓発、そして、ハラスメント問題に対する知識を深めることを目的として、「ハラスメント防止eラーニング研

修」を2020年度から2022年度の3年間実施した結果、一定の普及啓発に貢献でき、そして、ハラスメント問題に対する知識を深めたと考えられる。

研修時間や研修方式については向上の傾向にある為、現在のハイブリット型、もしくは、オンライン（オンデマンド）形式での実施が望ましいと考えられる。また、研修の時間は30分間が適切と考えられる。しかし、内容によっては「物足りない」、「わかりづらい」ととらえられる回答もあったため、内容を更新していく必要もあり、これらについては今後の課題である。

一方で、ハラスメントに関する各種の課題が挙げられ、表5.1に示す通り2020年から2022年の3回分のコメントを集計した結果、コメント数が減っている

ほか、次回研修への要望の割合が減少している。また、研修への改善を求めるコメントも2021年度から14%以上あり、2020年度から比較すると増加傾向にある。また、自由記述では「事例について知りたい」という内容は多いものの、2021年度ほどではなく、

むしろより「専門的な内容」や「アカデミックな場面でのハラスメントについての掘り下げ」等、状況を限定する声や、「アンガーマネジメント」等のセクハラ・パワハラに留まらない内容について学びを求める内容が見受けられた。

表5.1 研修におけるコメントの回答数と種別における割合の推移

	Q6 回答数	Q7 回答数	感謝・感想 (回答数/%)	要望 (回答数/%)	改善 (回答数/%)
2020年	75件	52件	15件 20.0%	53件 70.7%	7件 9.3%
2021年	70件	36件	10件 14.3%	50件 71.4%	10件 14.3%
2022年	50件	29件	9件 18.0%	33件 66.0%	7件 14.0%

このことから、今後の研修については、現状の内容を継続するのではなく新しい内容についても検討していく必要がある。

6. 参考文献

- 文部省 (1999), 文部省におけるセクシャル・ハラスメントの防止等の関する規定の制定について
- 文科省 (2019), 文科省等におけるハラスメント対策に関する取組, https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afieldfile/2019/02/12/1413420_2.pdf
- 日本教育心理学会 (2010), 日本教育心理学会ハラスメント防止ガイドライン, <https://www.edupsyh.jp/noharassment>

- 東京未来大学 (2007), 東京未来大学ハラスメント防止規程, <https://www.tokyomirai.ac.jp/info/disclosure/regulation.html>
- 東京未来大学 (2019), ハラスメント相談の手引き (2019年4月1日更新), <https://www.tokyomirai.ac.jp/info/disclosure/regulation.html>
- 東京未来大学 (2023), 【個人情報相談員】【ハラスメント相談員】, <https://www.tokyomirai.ac.jp/info/disclosure/regulation.html>

7. 付 録

アンケートに使用した調査項目を表7-1に示す。

表7-1 アンケートに使用した調査項目

質問項目	回答選択肢
Q1. 氏名(フルネーム)	自由記述
Q2. 今回の研修内容の理解度はどれくらいですか？	よく理解できた
	まあまあ理解できた
	どちらとも言えない
	あまり理解できなかった
	全く理解できなかった
Q3. 今回の研修内容はハラスメント防止のために役に立つと思いますか？	非常に役に立つ
	まあまあ役に立つ
	どちらとも言えない
	あまり役に立たない
	全く役に立たない
Q4. 研修の時間(長さ)はいかがでしたか？	長い
	やや長い
	ちょうどよい
	やや短い
	短い
Q5. 【zoomまたは動画で参加された方のみお答えください】今回の研修動画の見やすさはいかがでしたか？	とても視聴しやすかった
	まあまあ視聴しやすかった
	どちらとも言えない
	少し視聴しづらかった
	とても視聴しづらかった
Q6. 次回の研修企画に向けて、ご要望、改善点、今度ハラスメント研修で聞いてみたい内容等ございましたらお書きください。	自由記述
Q7. 日頃、ハラスメントに関する事で気になっていること、困っていること、悩んでいることはありますか？差し支えなければお聞かせください。	自由記述

(すぎもと まさひこ・おおた ひでき・
 のじま まさひろ・やぎゅう たかし)

【受理日 2023年11月22日】